

令和 8 年度 第 1 回名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

○日時	令和 8 年 7 月 1 日（水）午後 2 時より
○場所	法務局名取出張所 2 階 会議室 4
○出席者（9 名）	峯岸寛仁委員、佐々木泉委員 伊藤宗男委員、小沢静子委員 洞口のり子委員、五十嵐誓委員、森澤幸恵委員、今野むつ子委員 矢澤ユキ江委員
○事務局出席者	教育部長 山家ちとせ 教育部次長兼生涯学習課長 大元純子 生涯学習課 主幹兼生涯学習・青少年係長 工藤崇文 〃 社会教育主事 隈川貴文 〃 主事 鈴木俊太郎
○傍聴人	なし

会 議 概 要

1 開 会 進行：工藤係長 14：00～

会議の成立確認

名取市地域学校運営委員会設置要綱第 6 条第 2 項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第 2 条の規定により、公開の対象となる旨を告げた。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

2 あいさつ

教育長欠席のため部長による代読

事務局（工藤係長）

ここからの進行については、伊藤委員長にお願いしたい。

3 協議・報告事項

（1）第一回名取市地域学校協働活動研修会について

伊藤委員長

それでは、協議・報告に入る。(1)第一回名取市地域学校協働活動研修会について、事務局から報告をいただきたい。

隈川社教主事

令和 8 年 5 月 22 日に第一回名取市地域学校協働活動研修会を開催した。講師は柴田町スポーツ文化振興課の松田ゆう子氏に依頼をした。当日は、地域連携担当教職員や地域コーディネーターなど 39 名が参加をした。参加者からのアンケートを集計した結果、研修会の満足度が見て取れた。また、自由記述欄には「運営協議会とコーディネーターの関わりについて理解できた。」などの声があった一方で「話し合いの時間が短かった。」という声もあった。

次回以降に取り上げてほしいテーマについては参加者の属性によってばらつきがあるので、今後課内で検討を重ねていきたい。

伊藤委員長

第一回名取市地域学校協働活動研修会について事務局から報告があったが、委員の皆さんの質問やご意見をお聞かせ願いたい。

佐々木委員

今後も研修会が地域や学校の学びの場になっていけばいいのではないかな。

洞口委員

子ども会の減少もあり、多世代の交流がなくなっている。地域学校協働活動が多世代交流の場になっていけばいいのではないかな。

矢澤委員

スマホや AI などが発達している世の中だからこそ、地域学校協働活動のように人とが直接関わる場が必要なのではないかな。

今野委員

館腰地区でお祭りを行った。現在そのような地域の行事は減少してきているように見受けられる。そういった地域ぐるみでの取り組みが現代社会に求められているのではないかな。

峯岸委員

市内本部同士での情報交換にとどまらず、他の市町の取り組みを学べることはとても有益なことだと感じる。

小沢委員

研修会参加者が学んだことをそれぞれの所属に持ち帰ることでさらなる効果が生まれるのではないかな。

森澤委員

地域学校協働活動は地域と学校とが子どものことを考えて動いているということを、子どもたちに伝えていければと思う。

五十嵐委員

地域学校協働活動に関わらず、地域の旗振り役の人を見つけて活動に参加してもらうことが重要。

(2) 令和8年度各本部の事業について

伊藤委員長

続いて(2)令和8年度各本部の事業について、事務局より報告願いたい。

隈川社教主事

4月より各本部にて事業が始まっているものの内、6つの事業を紹介する。

一つ目は、高館協働本部の「開校記念行事」である。毎年、地域の方にゲストとして参加していただき、高館の歴史についてお話をいただいている。今年度は阿部滋子さんにご協力いただき、高館の昔話を披露していただいた。

二つ目は、下増田協働本部の「枝豆種まき」である。これは児童センターの子どもたちを対象に行われている事業で、コーディネーターである武田さんの「子どもたちに畑作業をする体験をさせてあげたい」という思いで続けられている事業である。

三つ目は、増中協働本部の「ゴーヤのグリーンカーテン作り」である。中庭から美術室に降り注ぐ日差しを遮るために毎年ゴーヤのグリーンカーテンを作っている。今年も一条工務店やダイナム美田園店などの職員の方が地域ボランティアとして協力してくださった。

四つ目は、閑上協働本部の「閑上をしよう」である。北海道から講師を招き、5年生が海浜植物であるハマボウフウの生態について学んだ。閑上だからこそ可能な取り組みであり、地域の魅力を生かした事業と言える。

五つ目は、増田西協働本部の「危険箇所探検」である。地域ボランティアや保護者の協力のもと、3年生が増田西地区に潜む危険箇所についてフィールドワークを行った。

六つ目は、相互台コラボ本部の「花時計の苗植え」である。3年生を対象に毎年行っている事業で、今年度はPTA会長の呼びかけの効果もあり多くの保護者ボランティアが参加をした。

伊藤委員長

第一回名取市地域学校協働活動研修会について事務局から報告があったが、委員の皆さんの質問やご意見をお聞かせ願いたい。

今野委員

館腰の地域で言えば、学校が地域にSOSを出してもらえれば多くの方が手伝ってくれる環境がある。私自身様々な場面で子どもたちと関わることもあるのだが、その度に元気をもらっている。

洞口委員

各本部の取り組みを見てみると、それぞれの地域性が出てきているように感じる。

矢澤委員

子どもの心や健康に関する事業も見られた。これからも続けていってほしい。

五十嵐委員

地域のカラーを生かした継続性のある取り組みが見られる。

佐々木委員

過去に増田西地区では子ども会育成会を中心としたお祭りがあった。しかし、コロナ禍を境に中止が相次いだ。しかし、コロナ禍が落ち着いたころから徐々に再開の方向に動き出し、現在では学校の体育館を会場に祭りを開催している。

峯岸委員

教員は3年ほどで学校を異動せざるを得ない。教員が異動したことにより協働本部事業が途切れることのないよう、今後も持続可能な事業にしていくことが求められている。

小沢委員

名取が丘では地域の見守りの方が高齢化してきている。資料によれば、相互台では見守り活動が盛んのようなのである。見守り活動について、今後不二が丘小学校の先生らと話ができればと思う。

森澤委員

昨年までゆりが丘小学校ではPTA活動がほぼ皆無であった。PTA活動がないと地域でどのような活動が行われているのかという情報が入ってこないという問題があった。そのため、地域や学校が子どもたちのために一生懸命に活動しているにも関わらず保護者は何も知らないという状況が続いていた。保護者の学校に対する興味関心を集めるためにも、自分の地域の学校だけではなく他の学校の取り組みや事業が見えるようになればいいと感じた。

今野委員

現代は新聞を取らない人も多い。自分の欲しい情報だけ取りに行っているという人が多いということも一つの要因なのではないか。

森澤委員

公民館便りに関しても、自分の地域のことしか載っていないので、他の地域でどのようなことが行われているのかという情報を得られにくい。やはり、情報を得るためには広報なりやナトぼたしかないのだろうか。

洞口委員

下増田は公民館と児童センターが近くにあるということもあり、公民館便りの表には公民館に関すること、裏には児童センターに関することが載っている。公民館だよりの掲載方法を工夫するということも一つ考えられる。

五十嵐委員

事務局にお聞きしたいのだが、名取市の公式LINEはあるのか。

事務局

公式LINEはない。

五十嵐委員

学校には公式LINEはあるのか。

事務局、峯岸委員

学校にも公式 LINE はない。

五十嵐委員

関東の学校では、LINE を活用して連絡をしたり学校便りを送ったりしている。そういったものを活用すれば、年代を問わずに名取市内の学校の情報を得られるのではないかな。

五十嵐委員

最近の学校のホームページは、児童生徒の個人情報を守るために関係者以外は見られないようになっている。保護者は、学校から配られたパスワードを使ってホームページに入るような流れになってきている。

なので、例えば生涯学習課のホームページに協働活動の様子を掲載するのであれば、少しでも多くの方に見ていただけるようになるのではないかな。

伊藤委員長

生涯学習課からマナビィガイドブックというものが出ている。様々な分野において講師を呼び学ぶことができる。そういったものを活用して。市民一人一人が学びを深めていくことも大切である。

伊藤委員長

続いて(3)その他について、事務局より報告願いたい。

限川社教主事

次回の運営委員会の開催時期についてだが、11月に予定している。時期が近付いたら改めて連絡をさせていただく。

伊藤委員長

進行を事務局にお返しする。

4 閉会

事務局（工藤係長）

以上で、令和8年度第1回地域学校協働活動運営委員会を閉会する。

15：20 終了